



せい らん 青 藍

瀬戸内町立篠川小中学校
令和2年7月15日発行

校訓 ～明るく 正しく たくましく～
～ 自律和親 ～

7月号



時を守り，リズムある生活を

校長 中原 誠

水は人間や動植物など全ての生き物の生命源ですが、一度牙をむけば甚大な災害を起こす。先日の南日本新聞ひろば欄、「モジズリと半夏生に無事願う」が目にとまりました。ハンゲショウの葉が白くなっていく頃の洪水を半夏生と呼ぶのだそう。投稿された方のお父様が生前、「半夏水が出て、死人が出らんと梅雨はあけん」と。あつてはならないが、昔の言い伝えが心に引っ掛かる。(略) 今年こそ、この言い伝えが現実とならないことを祈る。半夏生とは夏至から数えて11日目とか。梅雨も末期に入る。この花たちにも託して、平穏無事な梅雨明けを待ちたい、と結ばれていた。その翌日の新聞の見出しが、**熊本豪雨、球磨川氾濫**だった。そのあつてはならないことが起き、自然と先人の教えに恐怖を感じました。最近ニュースで、50年に1度の激しい記録的な大雨とか、かつて経験したことのない猛烈な雨等聞きますが、そうならないことを天に祈るだけです。

さて、学校の方は早いものでもう1学期も終わりです。4月中旬、コロナ禍の影響で休校となり、出端をくじかれた感がありましたが、その後は3密を避け、より安全対策をして授業を行ってきました。ここに来て、県内初のクラスターが発生し、感染者が激増、今後まだ増加するのではないかと感染拡大の恐怖感がありますが、まずは大きなトラブルや事故もなく授業日数68(67)日、1学期が無事終わられることに安堵しています。保護者や地域の皆様方には、学校教育への御理解と御協力、登下校の見届けや声かけ等心より感謝いたします。夏休みは安全に気をつけ、計画的に日頃出来ない体験等いっぱいして、一回りも二回りも心身共にたくましくなってほしいと思います。

ところで、日曜日の夜、「ボツンと1軒家」というTV番組があります。ご覧になられたことがありますか。なぜかその番組を見ると、ほっとします。そこに住んでいる方は大体がご高齢の方々。先祖代々からの土地を守るという責任感や住み慣れた場所を離れたくないという思いからなのか。年に数回、離れた近所の方や親戚が集い、結いの心で神事や行事を絶やさず、守り継承していく。また普段の生活は、時間を守り、1日のリズムを作る。例えば、起きる時間や畑に行き作った野菜を使っての朝食時間、その後の畑での菜園時間や就寝時間もそう、決して時間を無駄に使っていないように思えました。先日の放送では、スタッフに道を訪ねられた方が、わざわざ該当する1軒家まで親切に先導して案内をしていた。孫のようなスタッフに、ご高齢のおばあちゃんが優しく対応。その何気ない所作に、実るほど頭を垂れる稲穂のような品位や品格、苦難を乗り越えてきた人生観や人間味、そして、昨今私たちが忘れてきている他者への愛的なものを感じました。夏休みは時間がたっぷりあります。つつい・・・・と自分に甘え、時間を無駄にしがちですが、ラジオ体操に始まり、涼しい時間帯での自宅学習や自由研究、そして家の手伝いと就寝前は1日を振り返り、日記を書く等1日のリズムを意識して生活してほしいと思っています。